

# 歯科技工士の働き方改革セミナー

会場と  
Zoomの  
ハイブリッド  
開催

日時：2024年2月11日(日) 13:00～17:00 受付12:30～

会場：アクア博多 3F 福岡市博多区中洲5丁目3-8

日技労務主催  
技対セミナー

働く環境改善のための労務管理と基礎知識  
～労使間の信頼関係を築くために～

講師：松尾 博子 (公益社団法人) 日本歯科技工士会 常務理事  
歯科技工士労務対策委員長  
まつお ひろこ



基本研修

咀嚼の向こう側＜機能的障害と器質的障害への口腔内装置＞  
—「日本歯技」第538号掲載内容を基本とした解説—

講師：陶山 日出美 仙台歯科技工士専門学校 非常勤講師  
(日技認定講師)  
すやま ひでみ



自由研修

昔と今のカリキュラムを比べる事で、  
日常臨床の見え方が変わる材料のはなし

講師：中川 隆志 cloud.9 DENTAL LABORATORY  
クラウドナイン デンタルラボラトリー  
なかがわ たかし



お問い合わせ・お申込み  
一般社団法人 福岡県歯科技工士会  
TEL 092-751-0104  
FAX 092-751-4465

参加費 会員無料  
未入会員 3,000円

お申込みは電話  
QRコードから▶

申込〆切 2024年2月4日



## 【松尾博子 講師】

超高齢社会に突入した日本では、少子高齢化が進み、歯科需要は年々増加している。厚生労働省による令和2年度衛生行政報告例では、年齢階級別に見た就業歯科技工士数は50歳以上の割合が50%以上を示し、若者の歯科技工士のなり手不足、高い離職率は無視できない問題である。我が国では、2019年4月1日に働き方改革関連法案が本格施行され、その間に多くの職種で働き方が見直されてきた。仕事と生活の調和である「ワーク・ライフ・バランス」を重要視されている。それは歯科技工業界も例外ではない。歯科技工士も働き方に関する法律を遵守しなければ罰せられる社会となっている。歯科技工士にとって、働き方を改善させるということは簡単なことではないが、多くの他業種では困難と言われた「働き方改革」も少しずつ浸透している。

今回の講演では、労働力不足を解消しワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、歯科技工士労務対策委員会のなかで必要性の高いと議論された「36（サブロク）協定」、「同一労働同一賃金」、「勤務間インターバル制度」、「有給休暇の取得」、「育児介護休業法」「働き方改革推進助成金申請方法」の最新内容をポイント押さえて、「働き方改革」について考えていければと思う。セミナーを通じて労使間の信頼関係を確認しながら、この大変な過渡期に私たち歯科技工士が少しでも良い方向に進めるよう、今後目指すべき歯科技工士の働き方を皆さんと考えていければと思う。

1980年3月 高知県歯科技工専門学校卒  
2007年4月～ (株)ケイテックス 勤務（現在に至る）  
2009年4月～2011年3月 社団法人 東京都歯科技工士会理事  
2017年7月～ 一般社団法人 東京都歯科技工士会常務理事（現在に至る）  
2018年7月～2020年6月 公益社団法人 日本歯科技工士会理事  
2020年7月～ 公益社団法人 日本歯科技工士会常務理事（現在に至る）  
2022年5月～ 全国障害者技能競技大会 専門委員（現在に至る）

## 【陶山日出美 講師】

摂食・嚥下障害は様々な原因によって生じ、小児から高齢者まで幅広い年齢層に及びます。その為に嚥下障害患者は、診療所、総合病院、大学病院などの基幹病院など様々な医療機関を受診します。各医療機関に求められる嚥下障害への対応はそれぞれ異なりますが、大学病院では地域の基幹病院として様々な役割が期待されています。そこで、大学病院で製作経験した摂食・嚥下障害に対応する口腔外科技工の装置を供覧します。装置は機能的障害と器質的障害への摂食・嚥下補助装置となる舌接触補助装置（Palatal Augmentation Prosthesis :PAP）、軟口蓋挙上装置（Palatal Lift Prosthesis:PLP）、鼻咽腔閉鎖装置（Speech bulb）などがあります。

器質的障害と機能的障害とは？

齶蝕により歯冠部が崩壊している、または歯牙喪失によりものがよく噛めない等の対応として歯科技工によりインレー、クラウン、ブリッジ、義歯等が製作されます。これらは器質的障害の対応になります。歯科技工において、器質的障害、機能的障害という分類の教育はなされていませんが、摂食・嚥下障害は機能的障害、器質的障害があり、他に心因的障害の3原因に分けられます。心因的障害での自験例が無いため説明は省略します。機能的障害は中枢神経疾患、末梢神経疾患、筋疾患などに分けられ、嚥下関連器官自体の欠損等がなく、見た目には異常は発見できませんが飲み込み等の行為の動き、運動がうまく動かないなどの障害があります。原因として脳血管障害、神経障害などがあります。

1978年3月 九州歯科技工専門学校卒。  
同年 4月 久留米大学医学部附属病院歯科口腔外科勤務。  
2016年3月 久留米大学医学部附属病院歯科口腔医療センター退職。  
同年 4月 仙台歯科技工士専門学校非常勤講師。 現在に至る。  
<所属する学会>  
日本音声言語医学会・日本摂食嚥下リハビリテーション学会  
日本法歯科医学会・日本口腔顎顔面技工学会・日本顎顔面補綴学会

## 【中川隆志 講師】

臨床の現場で何故か失敗が続き、説明書や文献をあたってみると学生時代に学んでいた材料の知識に立ち返る。そんな経験はあるでしょうか。現在のカリキュラムは幅広く、その後の歯科技工士人生で役に立つ知識を網羅しています。一方で臨床現場からは「最近の学生は...」といった心ない声も耳にします。果たして本当にそうでしょうか。2016年より国家試験は全国统一され、その内容にはCAD/CAMやインプラントも含まれるようになり、2年間で学ぶ内容は増え続けています。

非常勤講師とカリキュラム編成委員を続ける中で、臨床現場と学校教育の境目で気づいた事をまとめました。wax-upと鑄造が主流であった時代と最新のカリキュラムを比較することで、変わったことと変わらないことを知り現在の臨床に活かす材料のはなしをしていきたい。本講演により世代間に横たわる溝が少しでも埋まれば幸いです。

2005年 福岡医科歯科技術専門学校歯科技工士科 卒業  
2005年 医療法人 井上秀人歯科 勤務  
2010年 博多メディカル専門学校 非常勤講師  
2013年 cloud.9 DENTAL LABORATORY 開設  
2016年～2020年 一般社団法人 福岡県歯科技工士会 理事  
2020年 公益社団法人 日本歯科技工士会 広報委員  
2023年 公益社団法人 日本歯科技工士会 次世代委員会  
<所属>  
博多メディカル専門学校 歯科技工士科 非常勤講師  
日本口腔インプラント学会 専門歯科技工士  
HKJP cara I-Bridge公認インストラクター